

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-254	15-309	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Review article: Alcohol and gut microbiota - the possible role of gut microbiota modulation in the treatment of alcoholic liver disease. アルコールと腸内細菌叢－アルコール性肝疾患の治療としての腸内細菌叢調節の可能性		
<b>執筆者</b>		
Vassallo G, Mirijello A, Ferrulli A, Antonelli M, Landolfi R, Gasbarrini A, Addolorato G.		
<b>掲載誌</b>		
Aliment Pharmacol Ther. 2015 May;41(10):917-27. doi: 10.1111/apt.13164. Epub 2015 Mar 23.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID:</b>
腸内細菌叢、アルコール性肝疾患		25809237
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景:</b> アルコール乱用は、欧米諸国の肝疾患で最も頻度が高い原因である。前臨床および臨床調査では、アルコール消費が腸内細菌叢の量と組成に影響を及ぼすことを示した。さらに、腸内細菌叢はアルコール性肝障害の病因において、重要な役割を果たす。</p> <p><b>目的:</b> アルコールの飲用と腸内細菌叢の変化との関係、腸内細菌叢のアルコール性肝臓疾患の病因としての関係、腸内細菌叢を変化させることがアルコール性肝臓疾患の治療の目標でありえるかを概説する。</p> <p><b>方法:</b> 論文は PubMed データベースを使用して、検索語を『アルコール』、『Gut Microbiota (腸内細菌叢)』、『アルコール性肝疾患』、『プロバイオティック』、『プレバイオティック』、『シンビオティック』、『抗菌性』として特定した。英語の論文が検索された。関連した研究のための刊行物の完全な調査が行われ、個々の論文の参照リストから特定された付加的な刊行物をも含んだ。</p> <p><b>結果:</b> アルコール乱用は腸内細菌叢の組成の変化を誘発するが、この変化をもたらす正確な機序は明らかではない。門脈血液への細菌の産生物の流入は、アルコールによって誘発された肝障害において鍵となる役割を果たすように見える。いくつかの調査は、腸内細菌叢の調節がアルコールによって誘発された肝障害を減弱するための有望な戦略である可能性を示している。</p> <p><b>結論:</b> アルコール投与と腸内細菌叢腸の変化の関係、アルコール性肝臓疾患とのその関係をよりよく理解するためには、更なる研究が必要である。腸内細菌叢調節の治療効果に関する予備的結果を確認するためにはより大規模な研究が必要である。</p>		